韓国医学図書館協議会第36回秋季学術大会に出席して

吉江 吉夫*

松本歯科大学図書館

茂幾周治氏（総務担当理事）と私，吉江（認定資格担当理事）は韓国医学図書館協議会（以下 KMLA）の招きで第36回秋季学術大会（2004年9月17日～18日，韓国，釜山市の近郊，忠武，ホテルマリーナリゾート）に出席しました。冒頭，NPO 日本医学図書館協会（以下 JMLA）の代表として茂幾氏から始まり，日本・韓国の医学図書館の相互協力，DDS 共同参画事業等に関し，これから共に手を携えて行こうと話されました。

次に，特別講演の時間は私の受持ちとなり「NPO 法人日本医学図書館協会認定資格ヘルスサイエンス情報専門員制度」と題し1時間ほど話をさせていただく機会を得ました。

この演題は，KMLA から以前から要望があったもので，彼らの依頼では制度そのものの詳細な内容より，むしろ設立過程自体に興味があるとの事でした。どのような議論があり如何なるプロセスを経て，JMLA の制度が出来上がっていったのか，苦労した点などについて，特にその経験話をしたいとのことでした。韓国国内では認定資格制度がまだなく，KMLA の組織構成・会員数はちょうど JMLA の半分くらい。認定資格の議論が現在，国内で起こりつつあるとの事でした。

会場には100人前後の人々が真剣そうな面持ちで既に待機し，緊張した空気が張りつめ，日本の音楽や文化の一部解禁と同様，通訳付きの日本人の話を聞くなどと云う経験はとびきり稀有なことかもしれません。IT 時代の昨今です。彼らとて資格制度などの情報はたちまち入手可能で，素早く時流に対応しなければという気持ちもそこには垣間見えました。（韓国には韓国の司書制度もあり，その効力も日本と同程度とのこと。職業的にも比較安定し修練を積んだ人々が多い事で知られています。）

JMLA の認定資格制度は開始されたばかりであり，この制度は日本の司書資格を意識してはいますが，資格とは本来，個人々が事情により千差万別の考えを持つもの

です。これは日本でも韓国でも変わりがないでしょう。そして，JMLA の認定資格の設立過程そのものが，民族・気質・労働環境が違う異国の地，韓国ではそのまま参考となり得るのでしょうか？ ここは熟慮の微が必要です。そこで日本の司書資格制度と医学図書館員の現在の専門性などについて触れながら，日本の他の資格制度一般の共通点などについて特に概説し，制度構築で様々な紆余曲折があった点等を例示しながら，今から振り返れば，どうして制度造りが出来たのかについて率直な経験を語りました。やはり，私は良き仲間，ブレーンに恵まれた経験をしているのです。結果，何事もやってみなければ始まらないし，やってみると誰もが予想できないことが實際たくさんあるのです。「理想過ぎる考え方には拘泥されず，自分達が出来ることから始めること。資格とは何かをお互いによく議論し，皆様の国，風土に合った制度構築をお考えください」とアドバイスのつもりで最後に述べました。大会終了後，志し篤き彼らと夜遅くまでの懇親会に出席。翌日は遊覧船にて，冬ソナの最後のロケ地，外島（ウェド島）へ全員での見学旅行に参加させていただきました。外島は島の緑が映え，海と空の碧さが複雑に絡み合う素晴らしき別天地。夕刻，飛行機でソウルへ。翌日，市内の大学路（テンハノ）地区散策では通訳付きの案内を受けました。風景は様々に違えども，韓国は日本から飛行機で2時間余り。勤勉，同じ職種の身近な隣人であることをいっそう実感させるひと時でした。

*Yoshio YOSHIE：〒399-0781 長野県塩尻市広丘郷原1780番地。
Fax. 0263-52-6597 yyoshie@po.mdu.ac.jp

（2005年3月2日 受理）